

千里ライフサイエンスフォーラム開催のお知らせ

2023年12月フォーラム(第362回)

- **開催日時**：2023年12月13日(水) 18時00分～19時00分
※終了後19時00分～20時00分に懇親会を実施します。
- **開催形式**：千里ライフサイエンスセンタービル6F 千里ルームAにて会場参加と講演収録。後日約1カ月録画配信
- **配信対象**：千里ライフサイエンスクラブ会員(年会費2,000円)
会員以外の皆様にもお申込みいただければ3日間限定で録画配信
- **講師**：篠田 謙一 先生
独立行政法人 国立科学博物館 館長
- **テーマ**：「古代ゲノムが解明する日本人の起源」
- **講演要旨**：

文字記録のない古代の集団の成り立ちや周辺集団との近縁関係は、これまで人骨の形態学的な研究をもとに調べられてきた。しかし、20世紀の終わりから始まる分子生物学の爆発的な発展によって、古代試料に残されたわずかなDNAの分析ができるようになると、人類集団の起源と成立の研究は新たな段階に入るようになった。この技術革新によって、21世紀以降に出土した人骨については、骨の形態学的な研究と共にDNA分析を行うようになってきている。特に2010年以降には次世代シーケンサが実用化し、それまでは母系に遺伝するミトコンドリアDNAの分析に留まっていた研究が、膨大な情報量を持つ核ゲノムの解析まで行うことができるようになり、より多くの情報を得ることが可能になった。

人骨のDNA分析は、系統や血縁といった情報に関しては、従来の形態学的な研究とは比較にならない精度で、しかも数多くのサンプルから情報を引き出すことが可能である。そのため、特にこの分野の研究に次世代シーケンサを用いるようになって以降、ホモ・サピエンスの誕生の経緯や地域集団の成立に関して、従来の学説を覆す研究が次々に発表されている。この分野の研究を30年以上主導したスバンテ・ペーボ博士に2022年のノーベル賞が与えられたことは記憶に新しい。

本発表では、最新の古代ゲノム研究が明らかにしつつある日本人の成り立ちについて、主として縄文人と弥生人の関係を中心に解説する。

● **講師プロフィール**：

学歴：京都大学理学部卒

職歴：産業医科大学助手、佐賀医科大学助教授を経て2003年より国立科学博物館勤務。2014年人類研究部長、2021年より館長。

専門分野：分子人類学

主なる著書：『人類の起源』（2022年、中公新書）『新版日本人になった祖先たち（2019年、NHK出版）』『江戸の人骨は語る』（2018年、岩波書店）『DNAで語る日本人起源論』（2015年、岩波書店）など

主なる講演テーマ：古代ゲノム研究が明らかにした日本人の起源

参加対象/参加費：千里ライフサイエンスクラブ会員(年会費2,000円)/ 無料

録画配信希望のお申込はご不要です。

会員以外の皆様にもお申込みいただければ3日間限定で録画配信

録画配信の準備が整い次第、視聴方法の案内メールを送らせていただきます。

申込先：公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団「千里ライフサイエンスフォーラム」担当

〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町1-4-2 Tel：06-6873-2006 Fax：06-6873-2002

E-mail：srlf-forum@senri-life.or.jp (HP：<https://www.senri-life.or.jp/>)